



アクアネクサス

薬剤不要な排水処理発売

ナノバブル・オゾン 総合紙器に今秋納入

旧・東北ウェイスエナジー時代に設けられた工場向け排水処理装置を開発してから4年。この間、循環処理システムの構築を進めると同時に、実地テストを重ね、今回の本格発売に至った。

ガリレオは、マイクロ・ナノバブルとオゾンによって高いレベルで排水を処理する点が画期的という。前者は非常に微細な気泡で、水中に滞留し、インキや糊成分の分解（酸化）を強力に促進する機能を持つ。後者は酸

素原子が3つ結合した気体で、強い酸化力を持ちながら短時間で分解し、殺菌や脱臭などの用途で用い

アクアネクサス（高野富士雄社長、東京都新田区、旧・東北ウェイスエナジー側）は、設けられた工場向け排水処理装置システム「Galileo（ガリレオ）」を開発した。同システムはマイクロ・ナノバブルとオゾンの機能によって、インキや糊を溶かした排水を処理する。高野社長は、「薬剤を使用せず、汚泥の排出がほとんどない点が画期的」と独自性を強調した。なお、初号システムは今秋以降、総合紙器メーカー・東洋合紙（佐々木大二郎社長、広島県廿日市市）の新工場に納入予定だ。

体で、強い酸化力を持ちながら短時間で分解し、殺菌や脱臭などの用途で用いられるっており、今回のシステムでもその機能を活用した。

高野社長は「薬剤不要なので、その費用削減はもちろん、薬剤を使用することで発生していた汚泥を抑制する効果もある」と述べる。同時に、「薬剤投入に伴う危険性を回避し、必要な作業および管理も簡便化できる」とする。

排水処理の手順は、図参照。まず、第一次・二次処理タンクで排水処理後、一次貯留水槽に移し、

タンクに溜めて再処理する。この時点で一次貯留水槽に残った処理水はほぼ浄化されているものの、さらに第三次処理を行い、今度は二次貯留水槽に移す。そして、ここで発生した二次貯留水も再び第一次・二次処理タンクに流して処理をする。この循環によって、薬剤なしでは汚泥の排出

をなくすことを実現したという。なお、同システムは国内外で特許出願中だ。

処理水は河川への放流が可能だが、高野社長によれば、「マイクロ・ナノバブルが含まれているため一定の洗浄効果があり、印刷洗浄や糊糊装置用としても活用できる」とする。

また、同社以外にも既に複数の紙器メーカーが

合紙器の佐々木社長は、「導入後には、多くの方々に導入システムを見学してもらいたい」と考えている。今回採用を決めた大きな理由は同システムの環境性に共感したから。今後も持続可能な循環型社会の構築に少しでも寄与できる企業を目指していきたい」とする。

問い合わせは、08-075990-0992まで。